

Minds 意見交換会 参加者アンケート結果(概要版)

【意見交換会概要】

テーマ：診療ガイドライン作成マニュアル2020の概要

2021年11月13日（土） 13：00～17：00 web開催

【参加者数】 281 名

【アンケート回答者数】 105名

【アンケートの構成】

1. 本日の内容の中で、特に興味をもたれたテーマ
2. 今後の診療ガイドライン作成・普及において有用な内容だったか
3. 今後のよりよい意見交換会の開催に向けて、提案や改善点など
4. 今後、意見交換会で取り上げてほしいテーマやご要望
5. Mindsへのご質問・ご意見

1. 本日の内容の中で、特に関心をもたれたテーマ

※自由記述より回答を抜粋して記載

●小児気管支喘息治療・管理ガイドライン2020：

- ・コクランレビューの利用法が良く分かった。
- ・経験者と新人のペアで作成していくやり方が参考になった。

●日本版敗血症診療ガイドライン2020：

- ・大人数が関与したガイドライン作成課程を知ることができた。
- ・作成メンバーの公募の仕方などが参考になった。
- ・普及に関してアプリの活用など、難しいかと思っていたことを実現させていた。

●統合失調症薬物治療ガイドライン：

- ・患者参画の仕方が大変参考になった。

●画像診断ガイドライン2021：

- ・CQ選択トリアージが大変勉強になった。

●作成者からの発表について：

- ・多くの先生が大変な努力をされていることが分かりやる気が出た。
- ・他ガイドライン作成の工夫なども伺うことができ、とても勉強になった。
- ・皆さん、同じ悩みを共有していることがわかって、少し安心した。
- ・いずれのガイドラインからも作成の実際的な問題点やどうやって乗り越えたかのお話がうかがえた。

1. 本日の内容の中で、特に関心をもたれたテーマ

※自由記述より回答を抜粋して記載

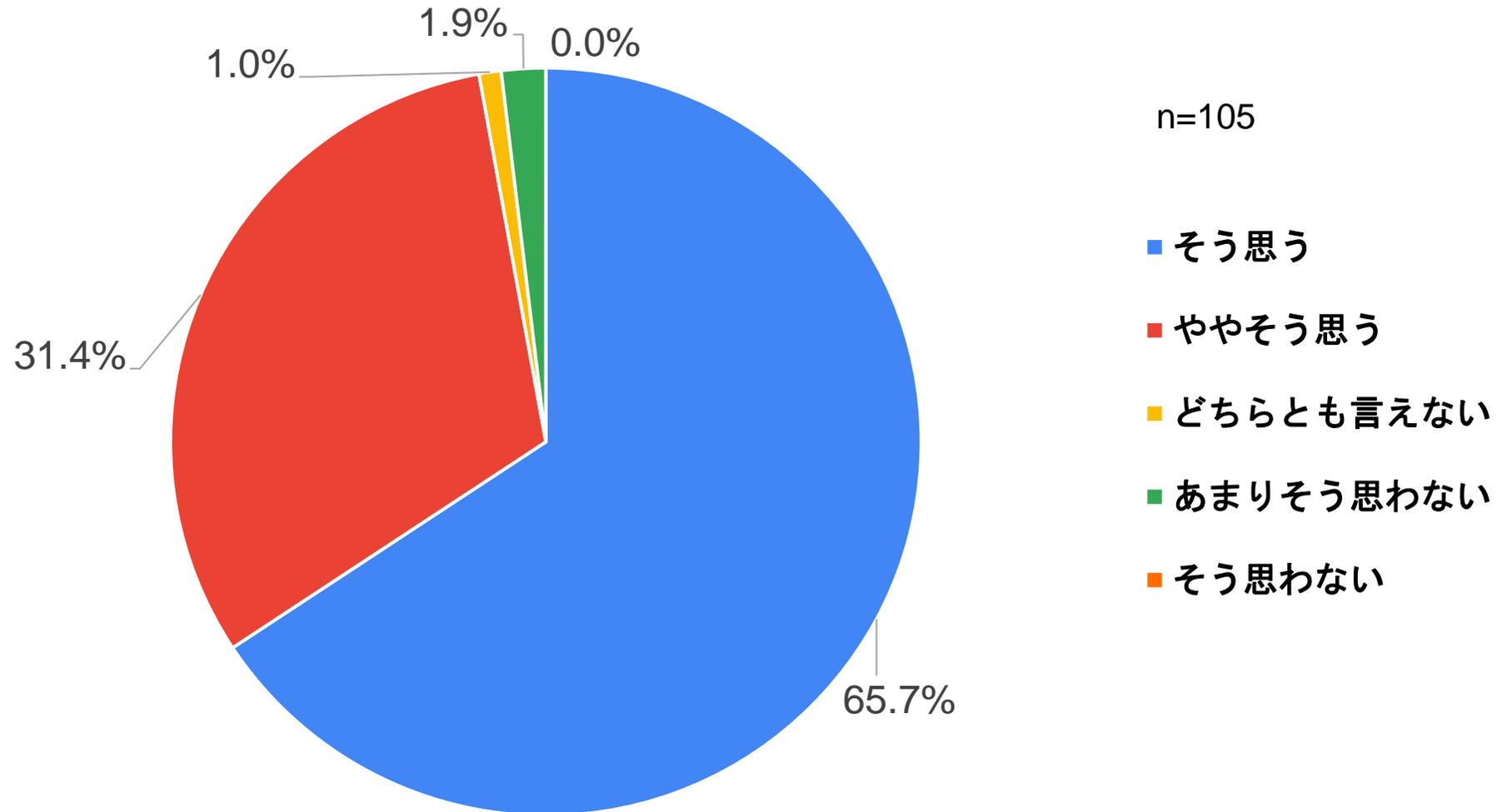
●マニュアル2020の内容

- ・新しいマニュアルの要点がよく分かった。
- ・ガイドライン作成の定義ややり方が常にバージョンアップされていることが理解できた。
- ・学術的COIが参考になった。
- ・患者市民参画に関しては、従来のガイドラインとは全く違った視点であり、大変驚いた。
- ・医療経済面からのアプローチは大切であることもよく分かった。
- ・患者参画や医療経済評価、医療リソースの検討など実施したいが、わからないことが多いため、関心があった。
- ・稀少疾患などでは、RCTがなくても、きちんとした方法で、透明性のある手法であれば立派なガイドラインであるということに大変勇気付けられた。

●全体に

- ・他ガイドライン作成の工夫なども伺うことができ、とても勉強になった。
- ・皆さん、同じ悩みを共有していることがわかって、少し安心した。
- ・自身が作業していて当たる壁の解決策の参考になった。

2. 今後の診療ガイドライン作成・普及において有用な内容だったか



今後の診療ガイドライン作成・普及において有用な内容だったか

※自由記述より回答を抜粋して記載

●「そう思う」

- ・ Mindsの作成マニュアル2020の変更点を中心に理解が進んだ（ボリュームが多いので、なかなか全体を通して読むのが難しいため）。
- ・ 患者市民参画、診断分野のシステムティックレビュー、医療経済評価、推奨の考え方等についてMindsの方向性と世界的な潮流についても共通認識が持てた。
- ・ ガイドラインを作成・更新するための情報が満載でした。また、他学会のガイドライン作成の実例、工夫、苦勞を聴けたのは大変貴重だった。
- ・ 実用的なガイドラインを作成するために非常に勉強になった。
- ・ 質問もしやすい雰囲気であり、理解が進みやすかった。

●「ややそう思う」

- ・ Mindsの作成マニュアル2020についてもう少し説明があると良かった。
- ・ 大変有意義であったが長かった。
- ・ 対象のレベルも様々であったと思う。後日の動画配信で復習したい。
- ・ 色々知ることができて良かったが、実際にどこまでできるのか、自分の関わるガイドライン内容を考えると不安の方が強い。

●「あまりそう思わない」

- ・ 作業が大変だということは伝わったが、どうすればよいかの解決策を聞きたかった。

3. 今後のよりよい意見交換会の開催に向けて、提案や改善点など

※自由記述より回答を抜粋して記載

①取り上げてほしい内容・テーマについて

- ・患者市民がすでに参画している作成グループのパートをもう少し増やしていただきたい。
- ・今回質問の多かった項目や、新しいテーマ（医療経済評価、患者参画）に特化した、少し短めのセミナーなどがあるかと良い。
- ・システムティックレビューと推奨作成を詳しく解説した内容があるとよい。
- ・実際の事例紹介は大変参考になった。できればpopulation perspectiveな活動についても取り上げてほしい。
- ・診療ガイドラインライン間で相反する推奨について。推奨度や治療レベルの違いについて検証する。
- ・Mindsの評価を受けてのガイドラインの質の向上について。（AGREE II 評価後、そのガイドラインはどのように内容が変わったのか）
- ・ガイドラインと現場のプラクティスとのギャップについての調査とその結果。
- ・今回の作成グループからの発表のように、診療ガイドライン作成の実際を具体的に教えて頂きたい。
- ・アウトカムについて。生存死亡がアウトカムだけではなく、患者の症状などの改善をアウトカムにする重要度が増えているため、今後は様々な視点のアウトカムが重要と思える。
- ・作成上困りやすいテーマについての詳細解説セッションの設定を希望する。

3. 今後のよりよい意見交換会の開催に向けて、提案や改善点など

※自由記述より回答を抜粋して記載

②ご案内・開催方法、開催時期、専用サイトなどについて

●開催形式（web）

- ・オンラインだと学会としては予算削減が可能でありがたい。
- ・作成委員が全国に散らばっているため、今回のようにオンラインでの意見交換会は出席しやすい。

●動画公開

- ・長時間であり、すべて集中して聴講することは難しく、あとで再視聴できると助かる。
- ・後日編集したweb配信でも良いので、より広く医療者の閲覧を可能にしてほしい。作成過程を広く医療者が知ることで、診療ガイドラインの適正な理解と活用がより深まると思う。

●時間設定

- ・休憩時間が短く、正直、疲れた。集中しきれないことがあった。

●会の進行方法

- ・Q&Aのみで、ディスカッションにはなっていない。
- ・全体の講義とともにグループでの議論も検討されるとよい。

●セミナー・講習会など

- ・全体的なレビューだけでなく、小グループでのディスカッションとその後の発表・全体ディスカッションという、講習で行っているようなこともやっていただきたい。
- ・Mindsガイドライン作成セミナー基礎編があれば参加したいと思います。

4. 今後、意見交換会で取り上げてほしいテーマやご要望

※自由記述より回答を抜粋して記載

●ガイドライン作成方法論

- ・SRの実際について。
- ・希少疾患やエビデンスの乏しい疾患におけるガイドラインの作成法やGood Practice Statementの記載方法。
- ・ガイドラインの評価方法について。
- ・医療経済評価が難解だったので、ガイドラインの実例を示していただけるとありがたい。

●普及

- ・ガイドラインを上手に普及して現場からフィードバックをもらい、かつ医療としての成果を把握するような取り組み。
- ・ガイドラインの普及度と社会的効果の評価と実際。

●患者向けガイド

- ・患者向けガイドラインについて。できるだけ大変ではなくなる作成の工夫があれば知りたい。

●その他

- ・診療ガイドライン記載において「行為」の時間的即時性に関して一定の指針が必要。現状は根拠のある即時性を考えずに比較的情緒的に「直ちに〇〇を行う（そのほか例：速やかに、可及的速やかに、遅滞なく）」といった表現がされている。
- ・提言やポジションペーパーを取りまとめた先生方のお話を伺いたい。

5. Mindsへのご質問・ご意見

※自由記述より回答を抜粋して記載

●公開前評価

・事前評価をお願いしたいと思ったが、2-3か月かかるということで、待つことが難しく諦めた。今回はもう無理だが、1か月ぐらいの期間にしていただき、どの時点で依頼できるかを明確にしていただければ今後利用者が増えると思う。

●診療ガイドラインの普及

・医療者のなかでもガイドラインに対しての認知度や理解度が低いことがあり、また、大事だけどしんどいからやらない、という空気もあり残念に思う。出来れば全国の医学部において、医学生教育の段階で、もっとガイドラインの重要性なども教育してもらえよう、働きかけていただけるといいと思う。

・診療ガイドラインの普及にはMindsの力が大きいと思うが、一般の方への認知度が低い点が気になる。

●診療ガイドライン利用者からの意見の収集

・各ガイドラインの使用状況を公表してはどうでしょうか？時間とお金をかけて作った割に利用されていないのでは、意味がないように思います。また、無料ダウンロードしてもらい代わりに、感想を述べてもらうフィードバックも検討してはどうでしょうか？

●個別支援

・今後進めていくうえで何かわからないことが出てきたらご連絡させていただきたい。

●Minds作成マニュアルの位置づけ

・Minds最新版に則っていないガイドラインは存在してはいけない、という風潮にはならないようにしてほしい。
・果たして、これだけEBMにこだわる必要があるのかというのが本心。エキスパートオピニオンが上手く活かせるような方向性は見出せないか。